

ゆりかご 園だより

3期(10~12月)のねらい。

手を使って作りだす活動を中心に
園生活を豊かにしよう

2023-12-1



ゆりかごの子どもたちは、比較的に元気なので、今季、これほどインフルエンザが広がるとは思っていませんでした。11月3日開催の「ゆりかご保育園50周年のつどい」に参加を予定してくださった在園・卒園家庭の方から、続々と欠

席の連絡があり、「これ以上参加予定者が不調になりませんように」と祈る思いで当日を迎えました。予定は227名でしたが、それでも大人・子ども合わせて196名が参加してくださいました。大人も子どもも楽しいひと時を過ごせたのなら嬉しいです。

〇オから就学前までの子どもが通える保育園があたら…。という当時の親の願いが集団の願いとなり、大きな運動につながってこの保育園が誕生しました。一人のお金持ちが建てたのなら、こんな保育園は誕生しなかつたでしょうし、「つどい」も会費を個人から徴収せず、招待してくれたでしょう。

工部では前園長の矢島満子氏がゆりかご誕生のものがたりを、文教大准教授の美馬正和氏にうまく引き出され語ってくれました。今の時代では考えられないエピソードの数々に会場から笑いと驚きの声が上がりました。

50年前の保育制度は今よりも貧困でした。「誕生」してからもゆりかごは「集団の願い」を運動につなげてきました。

- ・障がい児保育を実施するため、必死で日常バザを行い保育者の賃金を捻出。
- ・早朝保育(7:30~8:00)、長時間保育(17:00~18:00)、延長保育(18:00~19:00)の時間帯を、市は保育時間と認めず、その時間の保育を実施するためにかかる費用は、利用者が負担。市に要求し続け、10年かけて長時間保育の利用者負担がゼロになり、早朝・延長保育は、1999年から、今のようなたちに。
- ・アレルギー児が急増し、(他園で断われたためゆりかごに集中)誤食が多くなり、園の力の限界を痛感。1つの園に集中しないためにと、補助金を要求。やがて2008年につき、今では多くの園にアレルギー児が在籍している。

「現状よりも良い保育を」と熱い思いを行動に移してきた大人たちの多くは保護者でした。そんな保護者にリードされながら、職員たちも運動に参加してきたのです。

当時を語る保護者や職員たちはリタナクホてきています。ゆりかごの歴史を紐解き語り継ぐ、そんな貴重な機会となった「つどい」でした。